



# 自主的な地域スポーツ活動に 関する実態調査

—震災避難者と地域住民によるグラウンド・ゴルフの事例から—

---

体育学学位プログラム 工藤 実里

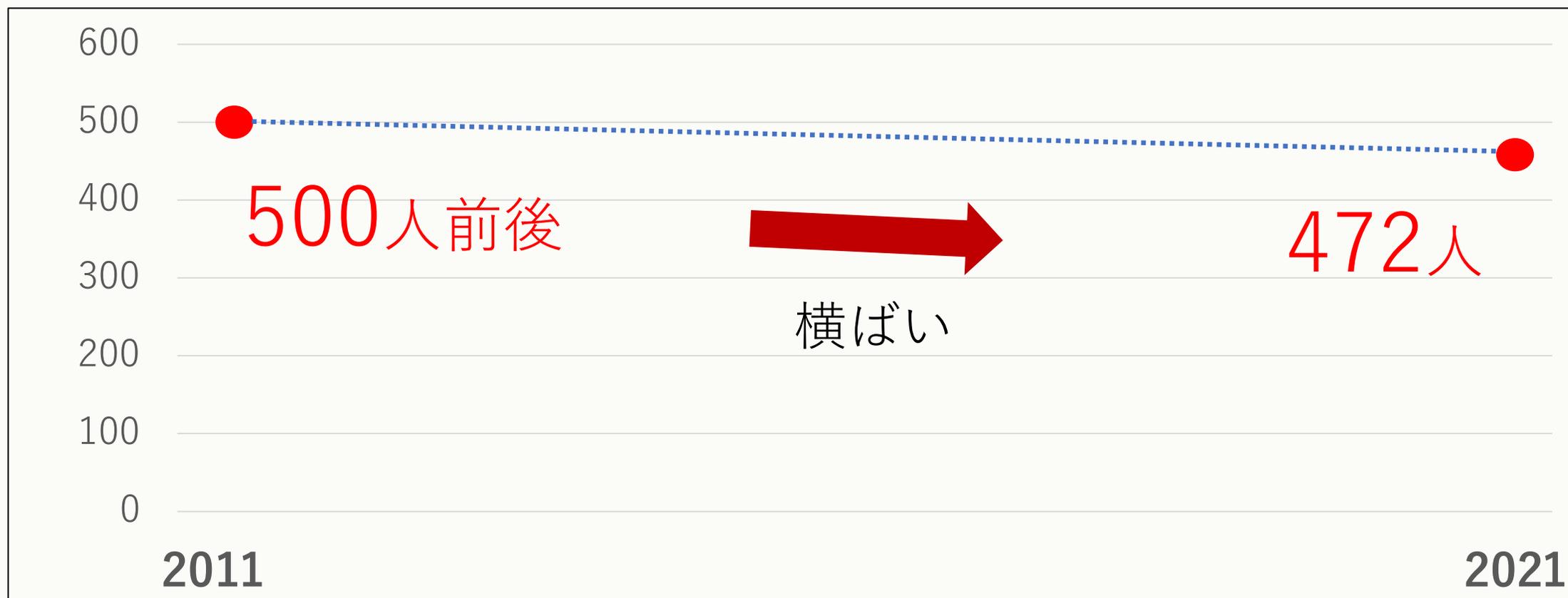
# 背景：東日本大震災による避難者数

全国



# 背景：東日本大震災による避難者数

## つくば市



# 背景：つくば市への避難者数が減少しない理由

つくば市への避難者の内訳

市町村別	世帯数	人数
大熊町	21	49
葛尾村	1	3
川内村	2	
富岡町	27	
浪江町	34	
楢葉町	8	
広野町	1	
双葉町	53	117
南相馬市	31	75

令和3年3月1日現在

**帰還困難区域  
からの避難者が多いため**



# 背景：避難者支援における課題



みなし仮設

避難者の  
社会的孤立



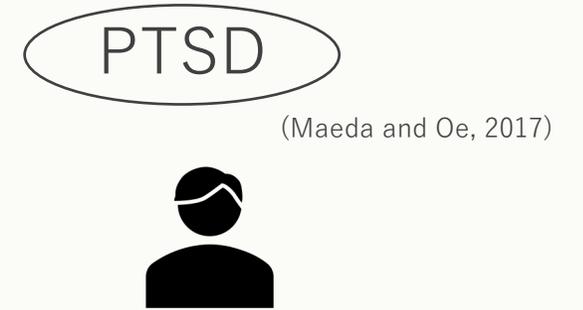
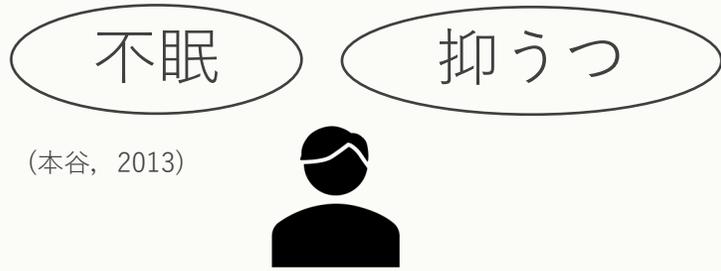
抽選による振り分け



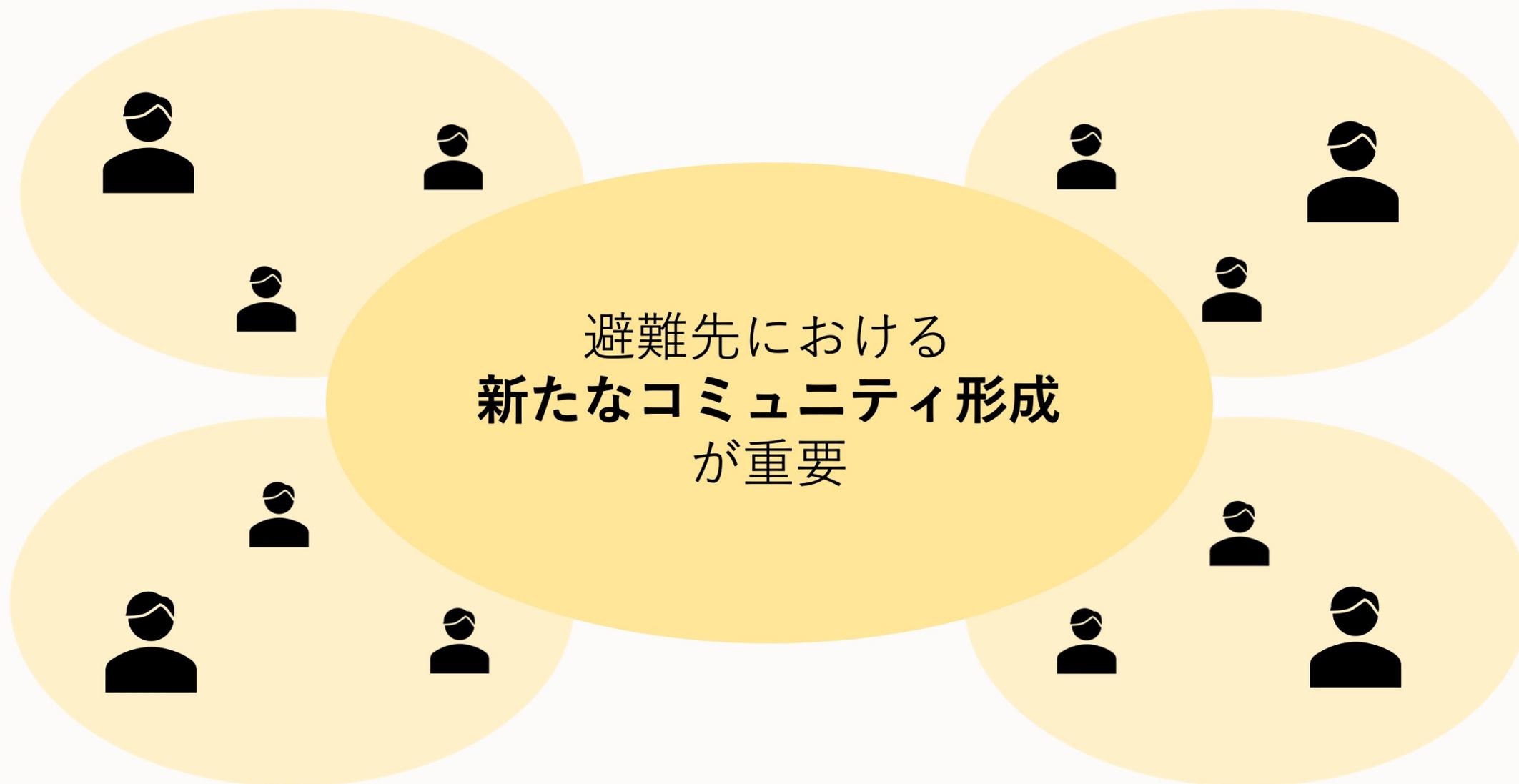
(Kondo and Shoji, 2016)

(内閣府, 2012)

# 背景：避難者の社会的孤立が及ぼす影響



背景：避難者の社会的孤立への対応



# 背景：コミュニティ形成のための活動

## 運動・スポーツ



(古屋ほか, 2016)  
(高田, 2018)

## 自主活動



(織田ほか, 2020)  
(雀, 2020)



コミュニティの活性化

## 背景：グラウンド・ゴルフに関する先行研究

身体的効果

(芹沢ほか, 2009)  
(柏原ほか, 2017)

心理的効果

(芹沢ほか, 2006)  
(森・湯地, 2020)

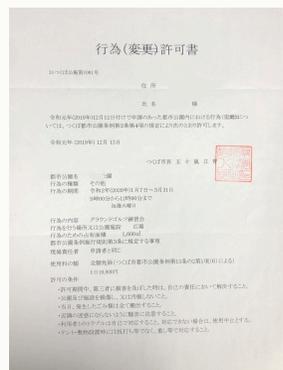
**震災避難者に焦点を  
当てた研究は見当たらない**

社会的効果

(宮本, 2007)  
(中島ほか, 2010)

震災避難者と避難先の地域住民によって運営されているグラウンド・ゴルフの参加者に対してインタビュー調査と参与観察法を実施することにより、その実態を明らかにするとともに、**自主的・自立的な地域スポーツ活動が避難先におけるコミュニティ形成に貢献する可能性**について検討すること。

# 研究フィールドの特性



公園の使用許可申請



プレーの進行



用具の管理



大会の企画・運営

**震災避難者と地域住民による自主的・自立的な地域スポーツ活動**

# 研究方法

## 対象者

避難者主催群（男性2名、女性2名）

避難者参加群（女性2名）

地域住民参加群（女性2名）

## 調査方法

インタビュー調査

参与観察法による補足的調査



# 研究方法：データの生成と分析方法

## インタビュー調査

グループでの半構造化面接

## エピソード抽出

## エピソード分析

修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(木下, 2003)

分析テーマ

「震災避難者と地域住民によって実施されているグラウンド・ゴルフ\*に対する参加者の認識」

\*以下「Nグラウンド・ゴルフ」とする

## エピソード分析の一例



[概念名] 楽しみの一つ

[定義] 雨で中止になると落ち込むほどNグラウンド・ゴルフが楽しみの一つになっていること。

[ヴァリエーション]

M: 女性は特にうんと楽しみにしているね。

Y: みんな火曜日の午前中を中心に回っているな。風邪ひいちゃいけないとか、病院は絶対に入れないとか。火曜の午前中は何がなんでもダメだ! といってな。 みんな火曜日を楽しみに暮らしている。

I: 火曜が雨だった時のみんなの顔はすごいもんね。がっかりした顔で、暗い顔で。

M: Hちゃんなんかは、雨降りそうだと‘今日やるよね?’と電話がかかってくる。

## エピソード分析の一例



I: 笑っていただけるよね。笑うのは大事。

(中略)

I: なんだかんだグラウンド・ゴルフがなくても会ってはいるよね。みんなさ、勝負にこだわっているようで、そんなに落ち込まないのよね。笑いのたねになる。

S: うん、外に出るっていっても、やっぱり午前中とか午後にわかれますけど。ここで騒いでいくと、やっぱりその一日がもうじゃお昼食べて横になってほんと一日本当にすっきり終わられる感じ。ただ、雨であの出られない時は、今日はなかったなーと思うと、一日が長いような感じするね。

[理論メモ]

・N グラウンド・ゴルフが雨で中止になった際には、『がっかりした顔』や『暗い顔』になってしまうほど、週に一度の楽しみと捉えている。雲行きが怪しい際にも『今日やるよね?』と念押しの電話

# 結果：分析結果

グラウンド・ゴルフ  
の**特性**

Nグラウンド・ゴルフ  
の**特性**

Nグラウンド・ゴルフ  
による対象者の**変容**

Nグラウンド・ゴルフ  
の**存在**

カテゴリー	構成概念	エピソード数	
身体活動	身体活動量の確保	5	7
	身体活動への喜び	2	
人との交流	避難先の人との交流	3	13
	避難者との交流	8	
	若い人との交流	2	
唯一無二の空間	アットホームな空間	9	15
	参加者全員で作上げる場	6	
高齢者の変容	一時的な現実逃避	2	16
	引きこもりの予防・改善	9	
	心身の状態の好転	5	
生きる活力	楽しみの一つ	15	25
	生活の一部	5	
	生きがい	5	
<b>計</b>		<b>76</b>	



## 考察：同様の対象者に対する研究の比較

体操教室参加の意味づけ(古屋ら, 2016)

構成概念	サブカテゴリー	エピソード数	
一時的な現実逃避		2	
身体活動	身体活動量の確保	9	12
	身体活動への喜び	3	
人との出会い・ふれ合い	避難先の人との出会い	11	33
	人とのつながり	17	
	若い人とのふれ合い	5	
生活の一部		10	
暇つぶし		5	
変化のきっかけ	心境変化のきっかけ	6	12
	行動変化のきっかけ	6	
楽しみの一つ		2	
<b>計</b>		<b>76</b>	

Nグラウンド・ゴルフに対する参加者の認識

カテゴリー	構成概念	エピソード数	
身体活動	身体活動量の確保	5	7
	身体活動への喜び	2	
人との交流	避難先の人との交流	3	13
	避難者との交流	8	
	若い人との交流	2	
唯一無二の空間	アットホームな空間	9	15
	参加者全員で作上げる場	6	
高齢者の変容	一時的な現実逃避	2	16
	引きこもりの予防・改善	9	
	心身の状態の好転	5	
生きる活力	楽しみの一つ	15	25
	生活の一部	5	
	生きがい	5	
<b>計</b>		<b>76</b>	

# 考察：異なる概念が生成された理由

体操教室(古屋ら, 2016)



ゲーム性が少ない  
運営主体は支援者

種目特性

運営形態

Nグラウンド・ゴルフ



ゲーム性を有する  
運営主体は参加者

まとめ：本研究から得られた示唆

## 自主的・自立的なグラウンド・ゴルフ

【唯一無二の空間】

【生きる活力】

避難先での  
コミュニティ形成

充実した避難生活



自主的なスポーツの実施が  
コミュニティ形成に貢献する可能性

## 今後の課題

~~いつでも~~

~~どこでも~~

~~誰にでも~~

選択バイアス



測定バイアス



- ・ 複数の事例を比較・検証する (杉村, 2004)
- ・ 研究上の性質を理解した上で検討する

(参考資料)修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチとは

修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ  
(Modified Grounded Theory Approach)

- ・ 社会的相互作用に関係し人間行動の説明と予測に優れた理論

(推奨される領域)

- ・ 人間と人間が直接的にやり取りをする社会的相互作用に関わる研究
- ・ 研究対象とする現象がプロセス的性格をもっている研究
- ・ ヒューマンサービス領域

(木下, 2003)

# 引用文献

1. 崔敏奎 (2017) 高齢者の健康づくりにおける自主活動と学び, 東北大学大学院教育学研究科研究年報, 66(1): 93-116
2. 古屋朝映子・檜皮貴子・鈴木王香・高橋靖彦・長谷川聖修 (2016) 震災避難者の語りからみる体操教室参加の意味づけ-福島県双葉町から茨城県つくば市への避難者の事例から-, 筑波大学体育系紀要, 29(2): 139-148
3. 柏原杏子・城所哲宏・山上隼平・宮下政司 (2017) グラウンド・ゴルフ実践者と地域在住高齢者におけるロコモ度テストから評価した移動機能の比較, 理学療法科学, 32(4): 583-587
4. 木下康仁 (2003) 『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践』, 弘文堂
5. Kondo, A. and Shoji, M.(2016)“Peer Effects in Employment Status : Evidence from Housing Lotter- ies for Forced Evacuees in Fukushima, ” IZA DISCUSSION PAPER SERIES, No. 9708 : 1-38
6. Masaharu Maeda, MD, PhD, Misari Oe, MD, PhD(2014)Mental Health Consequences and Social Issues After the Fukushima Disaster, Asia Pacific Journal of Public Health, 29(2) : 36-46
7. 宮本晋一 (2007) 高齢者スポーツの持つ可能性ーグラウンド・ゴルフの「楽しさ」を規定する社会学的要因と効果ー, 沖縄大学人文学部紀要, 10 : 97-107
8. 森楸・湯地宏樹 (2020) 高齢者スポーツとしてのグラウンド・ゴルフの特性-広島市井口台GGクラブ16年間のデータの数量分析-, 広島修大論集, 61(1) : 123-140
9. 本谷亮 (2013) 東日本大震災被災者・避難者の健康増進, 行動医学研究, 19(2) : 68-74
10. 内閣府 (2012) 『平成 24 年版防災白書』 <http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h24/index.htm>, (2021年12月31日最終閲覧)

## 引用文献

11. 中島匠郷・炭谷将史・土屋裕睦（2010）高齢者にとってグラウンド・ゴルフをする意味とはー心理学的エスノグラフィーによる分析からー, (18) : 163-174
12. 織田遙・菊地眞海・山内菜実・竹中響・阿部弥喜・大市美希・大西竜太・平野美千代（2020）健康づくり自主活動参加者が捉える活動参加による変化と地域活動への参加との関連, 日本公衆衛生看護学会誌, JJPHN, 9(3) : 146-155
13. 産経新聞(2021年3月8日)「10年で614人『孤独死』被災3県の仮設・災害住宅 7割高齢者、増加傾向」『産経新聞』<https://www.sankei.com/article/20210308-PHMEBBZLSRIG3DZCSYT25DBU7Y/> (2021年12月31日最終閲覧)
14. 芹沢幹雄・大石哲夫・松井恒二（2006）高齢社会における生きがいとしてのスポーツに関する研究ー静岡市におけるグラウンド・ゴルフ愛好者をケースとしてー静岡県立大学経営情報学部研究紀要, 19(1) : 19-35
15. 芹沢幹雄・大石哲夫・松井恒二・富田裕一郎（2009）高齢社会における生きがいとしてのスポーツに関する研究(2)ーライフレコーダによるグラウンド・ゴルフ愛好者の身体活動量と活動強度の測定ー, 静岡県立大学経営情報学部研究紀要, 21(2) : 51-60
16. Shihoko Koyama, Jun Aida, Ichiro Kawachi, Naoki Kondo, S V Subramanian, Kanade Ito, Gen Kobashi, Kanako Masuno, Katsunori Kondo and Ken Osaka Tohoku J.(2014) : Social Support Improves Mental Health among the Victims Relocated to Temporary Housing following the Great East Japan Earthquake and Tsunami, *Exp. Med.*, : 241-247
17. 杉村和美（2004）事例研究.無藤隆ほか編, ワードマップ質的心理学, 新曜社
18. 高田昭彦（2018）地域スポーツの“地域(コミュニティ)”とは何か? -コミュニティづくりにおけるスポーツの役割-, 成蹊大学文学部紀要, (53) : 99-123